2016 ESTRO school

ESTRO school in Japan 開催報告

教育委員会委員長　内田伸恵

2016年5月20日（金）～22日（日）に品川でESTRO School, Multidisciplinary Management of Breast Cancerを開催しました。2015年にESTROとJASTROの間で締結されたMemorandum of Understandingにより、正式な共催事業として2年に1度日本で開催することになったものです。今回は会員へのアンケートで希望が多かった乳癌の集学的治療をテーマとしました。金曜日朝から3日間の開催で参加者数が不安でしたが、最終的にはESTRO、KOSROなど海外からの25名を含め、108名にご参加いただきました。豪華なESTRO講師陣による講義では、日本での日常臨床との違いの発見もあり、ディスカッションも大いに盛り上がりました。

今回ESTRO school in Japan開催報告として、ヨーロッパからの参加者を含む3名の先生にご寄稿いただきました。また、local organiserとして運営に尽力された石倉　聡先生にアンケート結果解析と総括をお願いしています。

2017年は消化器癌をテーマに韓国で、2018年は頭頸部癌をテーマに日本で開催予定です。次回以降も多数の皆様のご参加をお待ちしています。

2016 ESTRO school

Multidisciplinary management of breast cancer

CHU Amiens Picardie　Radiation Oncologist, Dr. Alexandre Marque

In the 20-21-22nd of May, took place the course on multidisciplinary management of breast cancer in Tokyo thanks to the JASTRO-ESTRO collaboration. The high rise of breast cancer incidence in Asia during the last decades partly due to changes in lifestyle habits, as shown by Professor Darby, makes it a big issue for radiation oncologists.

This enlightening course included the best evidence available in the field of breast cancer radiotherapy, but also multidisciplinary management, and reminded us three important things:

- Overtreatment and under treatment are critical issues in breast cancer, and if some patients get high benefits from systemic treatment or loco-regional radiotherapy, de-escalation with genomic tools for instance, might also be considered in selected cases with omitting chemotherapy, irradiation, or considering partial breast irradiation to reduce late side effect and allow better quality of life.
- Although we had high quality evidence based medicine presentations, there was still a room for debate in many unresolved questions, as shown by teachers having sharp argumentations about controversial topics like hypofractionated radiotherapy, partial breast irradiation, or post mastectomy radiotherapy.
- Multidisciplinary care considering patient preferences is essential for better personalized care of course, but also to

allow each other to do their best in their field, for instance, close collaboration between surgeons and radiation oncologists might help for better tumor bed delineation.
A strong point of this course was also the comprehensive coverage of breast radiotherapy techniques and physical aspects, like partial breast irradiation or deep inspiration breath hold techniques, IGRT protocols, but also new methods of breast treatment planning as IMRT or VMAT. Interactive contouring workshops were very helpful to standardize ways of delineating target volumes for breast and lymph node stations.
I also enjoyed getting a critical point of view about the new data recently published concerning loco regional treatment in breast cancer, balanced with topics about toxicity. The whole teaching staff, expert in their field, was really available and allowed lots of time for discussion and made these sessions very interactive. They tried to do their best to answer to all the solicitations they had. It was really appreciated.
We also had the chance to share experiences from local organizers with interesting topics from Japan like the one from Doctor Oguchi defining the importance of lymphovascular involvement in breast cancer decisions. It is such interesting to learn about diverse point of views. We progress if we learn from each other and this form of collaboration between ESTRO and JASTRO was really appreciated.
I would like to thank everyone, the teachers and all orators of course, who made this course so interesting, but also the organizers, without who, this course in this such wonderful country wouldn't have taken place.

2016 ESTRO school

2016 ESTRO schoolに参加して

滋賀県立成人病センター　放射線治療科　山内智香子

2016年5月20日～22日の3日間にわたり開催されました2016 ESTRO school に参加させていただきましたので、ご報告させていただきます。

今回のテーマはMultidisciplinary Management of Breast Cancerということで、会員アンケートで希望が多かった乳癌の集学的治療が取り上げられたとお聞きしています。私は、乳癌学会編の乳癌診療ガイドラインをはじめ、長く乳癌の診療や研究に携わらせていただいていることもあり、今回は教育委員会のご高配にて参加させていただきました。

品川駅近くの会議場で開催され、9カ国から110名の放射線腫瘍医が参加されました。JASTROからもまさに「老若男女」、多数の先生方が参加されていました。コースディレクターはESTROの前会長であるPhillip Poortmans先生が務められ、他に8名の講師の方が参加して下さいました。Poortmans先生は何度も来日されており、また、言うまでもなく最近ではEORTC 22922/10925トライアル（腋窩リンパ節転移1-3個陽性例におけるリンパ節領域照射の意義を検証するランダム化比較試験）の論文でも大変ご高名な先生です。その他の先生方も、重要な研究や論文で高名な先生方ばかりで、直接講義を拝聴できる幸せを感じた3日間でした。

初日はPoortmans先生のイントロダクションから始まり、そのスライドにはセミナーの概要のみならず、日本の歴史や景勝なども美しいスライドで紹介されました。2日目・3日目の朝にも必ず前日のwrap upから始まり、とても印象的でした。セミナーは、放射線腫瘍医のみならず、高名な腫瘍内科・外科の先生も非常に示唆に富んだ講義をして下さり、また、ディベートセッションでは、ユーモアやウィットも散りばめながら、熱い議論がなされて、とても楽しいものでした。Contouringのセッションでは、実際にESTROのアトラスを書かれている先生方から詳細な解説を聞くことができました。セミナー全体としては、'Multidisciplinary Management'のテーマ通り、私たち放射線腫瘍医が学ぶべきことが網羅され、非常にバランスよく構成されていると思いました。また講師やスタッフのチームワークもすばらしいと感じました。
すばらしいセミナーで多くのことを学ばせていただき、また、わが国の診療との違いや問題点なども気づかせていただきました。今後、機会があれば今回のセミナーに参加できなかった先生方にもお伝えしていければと思います。私は英会話が苦手で、講師の先生方とあまり積極的に議論できなかったのが反省点です。一方、若手の先生方が、英会話の得意・不得意に関係なく、懇親会などで講師の先生方に積極的に話しかけたり質問したりされているのをお見かけし、大変頼もしく、またうれしく感じました。2年後にはまた、頭頸部癌をテーマに開催されると聞いています。是非次回も参加させていただきたいと思っております。

末筆になりましたが、今回ESTRO schoolにお招

きいただき、また参加報告をさせていただく機会を与えて下さいました教育委員会の先生方、特にESTRO schoolご担当の石倉聡先生、委員長の内田伸恵先生に心より感謝申し上げます。

2016 ESTRO school

2016　ESTRO schoolに参加して

横浜市立大学附属病院　放射線科　高野祥子

先日ESTRO schoolに参加させていただきました。金曜日から職場に休暇を頂き、参加費は自費で5万円、極め付けは講義が全部英語、ということで、私にとってはなかなか申し込みに勇気のいるプログラムでした。それでも是非受講したいと思えたのは、初めて参加した2年前の同プログラム（テーマはTarget contouring）の満足度の高さでした。お陰様で大変有意義な3日間を過ごすことができ、受講を後押ししてくださった諸先輩方には感謝でいっぱいです。今回は少しだけ、その内容についてご紹介させていただきたいと思います。

会場は東京・品川コンファレンスセンターで、5月20日～22日の毎朝8時半から夕方5時ごろまでぎっしりと講義が詰め込まれたスケジュールでした。今回のテーマはBreast Cancerということで、対象を乳癌に絞り、疫学研究や、外科手術・内科治療を含めた様々な角度から、改めて放射線治療を勉強できるようなプログラム構成となっていました。

まず、当日を迎える前から圧倒されたのは、講義資料の充実ぶりです。多くの授業スライドは、事前にPDFでダウンロードが可能になっていました。紙好きの私はすべてを印刷して持って行ったのですが、これがかなりのボリュームで、その分厚さを分かり易く（?）例えると、『がん放射線療法2010（篠原出版社）』くらいの冊子になってしまいました。他の参加者の方々の多くは、ご自身のPCにPDFファイルを入れて持ち込まれていました。

次に驚いたのは、講師の先生方の豪華さです。イギリス、フランス、ドイツ、デンマーク、オランダなどヨーロッパ各地から各国を代表する著名な先生方が来日され、分野も乳腺外科、放射線科以外にも、疫学や婦人腫瘍学、腫瘍学などの著名な先生方が一堂に会して、かわるがわる講義を担当してくださいました。

どの授業もとても面白かったのですが、日本の学会や勉強会では見かけないような、特徴的な授業が二つありました。一つ目は、Contouringの授業です。参加者には事前に宿題として症例が送られており、本物の治療計画装置のような使い勝手のOnline ソフト上で、各自contouringを行ってから授業に臨みました。授業では、Authorityの先生が、ご自身でお手本として作成されたContouringを解説してくださり、また私たち参加者全員の囲みと比較して、大きく変化が出た部分や、参加者同士の個人差が大きかった部分について、さらに解説や議論を加えてくださいました。今回はもちろんESTROガイドラインに沿って囲んでいったわけですが、私の施設では普段RTOGを参考にして囲んでいたので、RTOGとESTROのcontouring guidelineの違いや共通部分についても改めてしっかりと見直す機会となりました。そして、contouring guidelineを作っている先生に直接、どのような意図でメルクマールやtargetを設定しているのかを聞くことができ、本当の意味での理解が深まったと感じられました。

また、もう一つの特徴的な授業は、ディベートの時間です。ディベートといっても、今回はクラスで班分けをするわけではなく、二人の先生が、異なった立場にたって授業・議論を繰り広げ、それを聞いた参加者が投票を行う、といった形式でした。テーマは、n=1～3の時のPMRTの適応と領域照射の範囲や、寡分割照射の適応についてなど、本当に今議論の分かれている問題で、しかもそれらの問題について現状で世界的に大きな根拠となっているstudyを、実際に主導した先生方がお話しされるので、とても聞きごたえのある内容でした。

授業の前後に、参加者全員で即時投票システムを用いて投票するのですが、参加者の意見が変わったり、やっぱり変わらなかったりといったことが、その場で分かるのもとても興味深かったです。ヨーロッパと日本の標準治療の違いだけでなく、その根拠や考え方の違いも、肌で感じられたような気がします。またClinical case discussionという授業でも、リスクに応じた治療負担の低減や、SNLB陽性の腋窩のマネージメントなどをテーマに、臨床で実際に迷うような症例を取り上げて、投票と解説をしていただき、これもとても勉強になりました。

さて、ここまで、まるで私がすべての授業内容を聞き取って理解できているような書き方をしてしまいましたが、正直なところ、私の英語力はそのレベルではありませんでした。授業の英語は、先生方が簡単な単語でゆっくり話してくださっていたので、比較的理解しやすかったと思います。それでもdiscussionの解説の時など、世間で結論の出ていない議題についての話題になると、一生懸命聞いていても、結局その場でどういう結論になったのか、なんだかよく聞き取れないまま終わってしまうこともしばしばで、後から他の参加者の先生と答え合わせをしたりしていました。

また、分かりやすいはずの授業の英語も、ハンドアウトと見比べながら一生懸命聞けている時はよく頭に入るのですが、ちょっとでも気を抜いたり疲れてくると、さっきまで言語だった英語がただの雑音に変わって、すーっと頭を通り抜けてしまうような感覚を、何度も何度も経験してしまいました。日本語で授業を受けるのとは比にならない集中力が必要で、とても疲労・消耗しました。
それでも3日間頑張っていると、初日よりも二日目、二日目よりも三日目のほうが、楽に授業を聞けるようになった気がして、少しは成長しているのかなと、嬉しくなりました。またどうしても分からない部分について授業後に先生のところに質問にいくと、ゆっくり丁寧に回答してくださるので、よく理解でき、これも自信につながりました。

今回のESTRO schoolは、普段断片的に勉強するのが精いっぱいな乳腺という分野について、系統的な学習を行えただけでなく、最新の知見を高名な先生方に解説していただける本当に貴重な機会となりました。そして私にとっては、それと同じくらい〝生きた英語〟に触れられたことも、とても有意義だったと感じています。最近ついにJASTROの学会抄録が英語指定になったり、外勤先がメディカルツーリズムを謳うようになったりと、私の生活圏にも徐々に国際化の波が押し寄せていて、少なくとも私が働くあと何十年かの間には、英語なしでは生きていけない世の中になっていくのだろうなとつくづく感じます。今回ESTRO schoolに参加し、本気で英語力を鍛えねばと危機感を抱かされました。

このような貴重な機会をあたえていただきましたJASTROコーディネーターの先生方、そして快く私を送り出してくれた職場の上司・同僚に心より感謝いたします。どうもありがとうございました。

2016 ESTRO school

ESTRO/JASTRO共催 2016 ESTRO Schoolを開催して

越谷市立病院　放射線科　石倉　聡

皆様、いかがお過ごしでしょうか。時間は飛ぶように過ぎ、5月のESTRO Schoolから4か月が経ちました。今回、local organiserとして準備に携わる貴重な機会をいただきました。ご参加の皆様からいただいたアンケート結果の一部とともに、経過、感想などをご報告いたします。

JASTRO側は、local organiserに教育委員長の内田伸恵先生と小生、また教育委員会のESTRO School担当チームとして生島仁史先生、平田秀紀先生、田巻倫明先生、辻野佳世子先生、松尾幸憲先生、中村聡明先生、染谷正則先生、澁谷景子先生の計10名の体制で、2015年1月より準備を始めました。今回のテーマは、2014年のESTRO School参加者の希望調査、JASTRO教育委員会での検討、ESTROとの調整の結果、2015年3月に乳癌の集学的治療に決定、会期は週末5月20日(金)～22日(日)の3日間となりました。遠方からの参加者が最終日のうちに帰宅できるよう、また日本の現状に合わせるため欧州開催時のプログラムから一部変更、短縮しました。また、会場の選定には空路、鉄道へのアクセスも重視しましたが、広さ、設備、費用、地理的条件等、すべてを満たすことは容易でなく、次回開催以降の課題となりました。2015年4月の3rd ESTRO ForumではESTROからEducation and Training Committee委員長のRichard Pötter先生とCOOのChristine Verfaillie氏、JASTROから西村恭昌理事長、内田先生、小生、KOSROから教育委員長ほか数名が参加したミーティングで、日韓でそれぞれ隔年開催するESTRO Schoolに関する情報共有、意見交換を行いました。ESTROの教育にかける強い熱意が感じられ、あらためて我々もがんばるぞ、と気合を入れました。その後予算案の作成を始めましたが、参加費の設定にはかなり悩みました。JASTRO会員の参加費は、ESTRO一般会員の参加費(早期登録：€600、通常登録：€725)より減額し、研修医の参加費(早期登録：€450、通常登録：€625)とほぼ同額(早期登録：50,000円、通常登録：60,000円)にする一方で、JASTROから補助金として300万円を上限として支出することを理事会で承認いただき、何とか収支バランスが取れる見込みになりました。

開催まで半年となった11月には本格的にプログラムの調整が始まりました。コースディレクターのPhilip Poortmans先生には、大会長を務められていた2016年4月開催ESTRO 35の準備で極めてご多忙の中、プログラムの内容、時間配分につききめ細やかに講師陣と調整をしていただき、頭の下がる思いでした。その後、JASTRO会員の皆様へのお知らせ、各種Webページの作成等を経て、2016年2月に参加登録を開始することができました。2014年の開催時は数日で定員の登録があったと聞いていましたが、今回もESTRO会員向け(15名)とKOSRO会員向け(10名)の海外参加枠がすぐに埋まり、その関心の高さに驚きました。一方でJASTRO会員向けの参加登録ペースはそれほど速くはなく、3月の時点では参加者不足で大赤字になるのではと大変心配しました。その後、土日2日間のみの参加枠も追加で設定し、5月9日に

受付を終了。最終的にほぼ定員の87名の参加申し込みをいただき、ほっとしました。

4月下旬からは当日の運営など最終確認を行い、またゴールデンウィーク中の開催となったESTRO 35ではESTROからEducation Council委員長のPötter先生、次期委員長のJesper Eriksen先生、COOのVerfaillie氏、JASTROから西村理事長と小生とでミーティングを持ち、ESTRO Schoolの準備状況の報告と改めて教育事業に関する今後のESTROとJASTROの協同について意見交換をいたしました。その際、オンラインのtarget delineationコースの開催についてESTROから提案があり、昨年JASTRO会員に行った開催希望トピックスのアンケート結果をお伝えしました。開催時には是非参加いただければと思います。将来的には日本語で開催することも可能とのことで、今後教育委員会でも検討を進めたいと思います。また継続的な取り組みのため、今後毎年ESTRO学術大会時に、ESTRO Educational CouncilとJASTRO教育委員会/ESTRO school担当者による定期的なミーティングを持つことになりました。

さて、話しが少しそれましたが、1年4か月の準備を経てようやくESTRO School当日を迎えることができました。3人の先生方にご報告いただきましたように、大変貴重で充実した内容であったと思います。ともに準備、運営にあたっていただいた内田先生、生島先生を始め、担当チームのメンバーには改めて感謝いたしております。ご参加の皆様に回答いただいたアンケート結果も踏まえて、2年後はより一層よい形で開催できるよう、今回の経験を教育委員会で共有し、引き継いでいきたいと思います。

図1

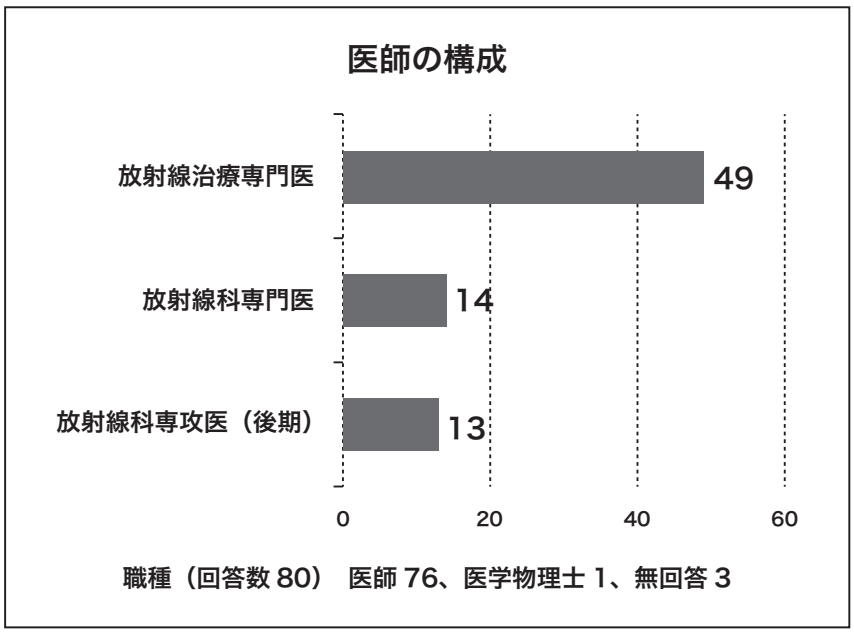
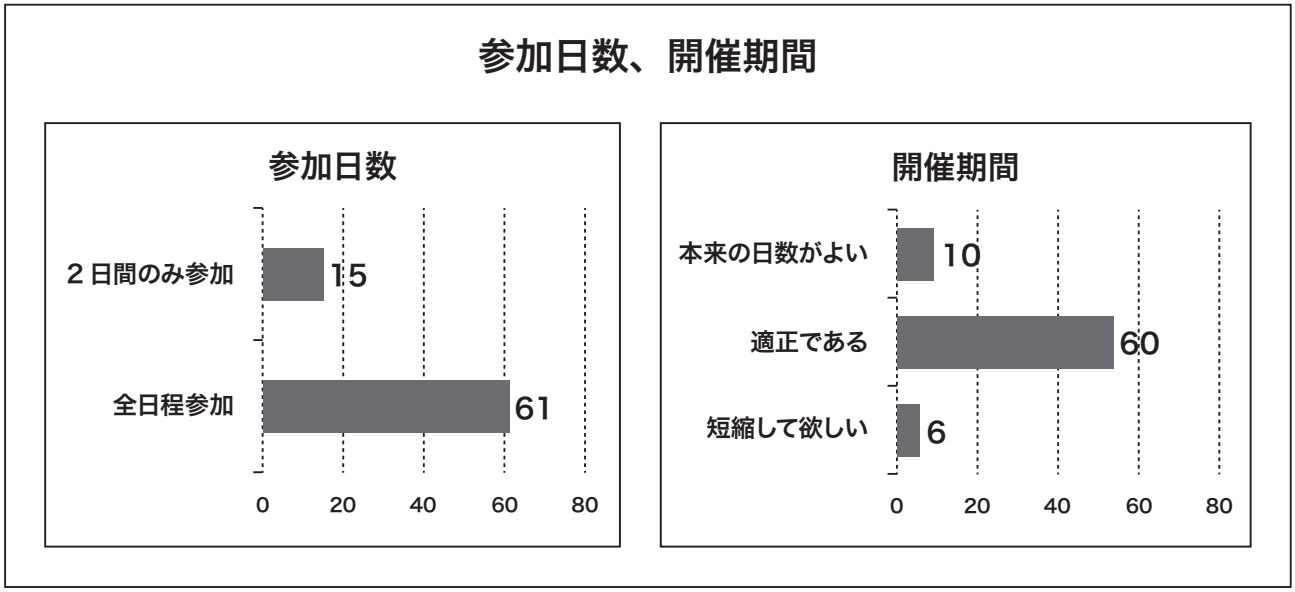


図2



ここで一部ではありますが、アンケート結果をご報告いたします。JASTROからの参加者のうち80名の方から回答いただきました。医師が76名とほとんどを占め、内訳は図1のようになっていました。放射線科専攻医、放射線科専門医に放射線治療専門医取得後5年以内の先生をあわせると半数以上となり、多くの若手の先生方に参加いただきました。およそ80%の先生方に全日程参加、開催期間も適正と回答いただきましたが(図2)、参加が困難な先生方も少なくなかったのではと思われます。今後、オンラインコースなど参加しやすいコースの充実も必要ではないかと感じています。参加費についてはおよそ25%の先生が高いと回答されました(図3)。先に述べたような収支バランスの問題もあるため、今後の検討課題であります。欧州におけるESTRO Schoolの参加費、盛況ぶりをみると、個人的には、多少高額であっても自己投資として積極的に参加することをお勧めしたいと思います。また70%を超える先生方には次回も是非参加したいと回答いただき大変心強く感じました。2017年は消化器癌をテーマに韓国で開催、2018年は頭頸部癌をテーマに日本で開催予定となっています。

最後に、講師の先生方にはとてもフレンドリーでリラックスした雰囲気を作っていただき、まさにスクールという言葉がぴったりの教育コースでした。また講師の先生方に加え、ご参加の皆様からも多くの笑顔と元気をいただき、準備をしてきてよかったと大変嬉しく思いました。楽しかった思い出として皆様の記憶に残れば幸いです。本当にありがとうございました。

それではまた、次回ESTRO Schoolで!多くの皆様とお会いできることを楽しみにしております。

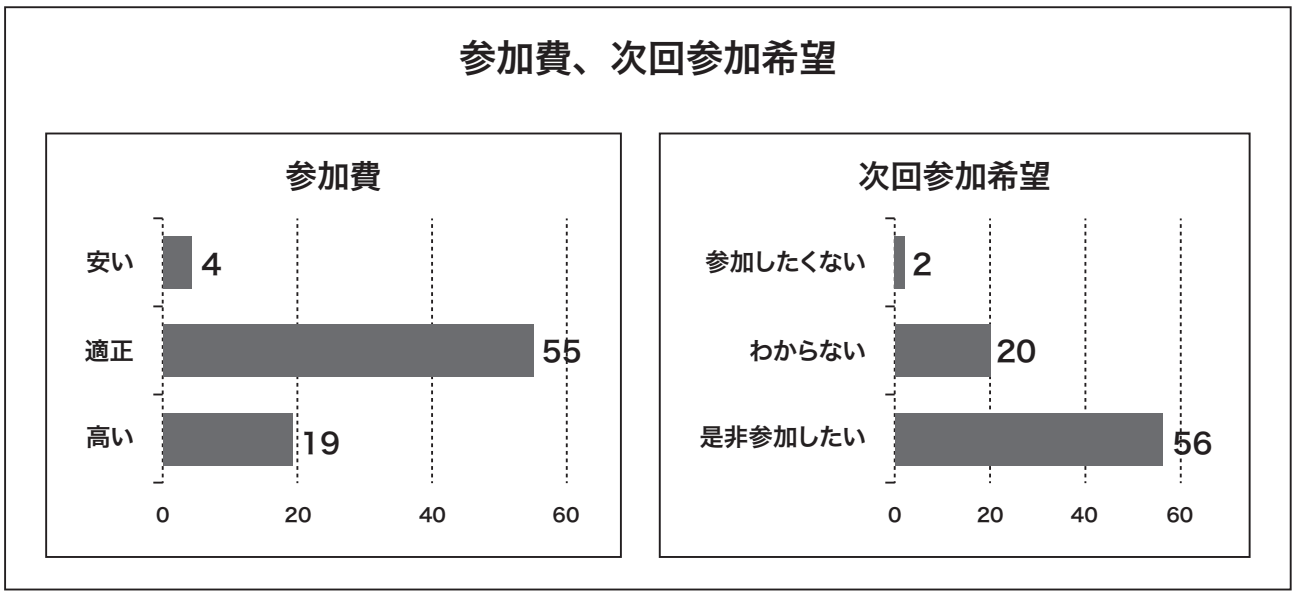



図3